



樹脂ワックスの塗布方法

樹脂ワックスの塗布とポイント



ペンギンワックス株式会社



樹脂ワックスとは

樹脂ワックスの成分は、主にアクリル樹脂、スチレン・アクリル樹脂の共重合物の乳剤（エマルジョン）です。

樹脂ワックスはこの水溶性アクリルエマルジョン樹脂を主成分に床材の保護と光沢の維持を目的として作られています。

樹脂ワックスは床材に塗布しただけで、透明で光沢のある硬い塗膜（フィルム）を作ります。そのため、乾燥するまで歩行ができません。感覚的には透明の塗料を塗布するのと同じです。

樹脂ワックスは透明なフィルムを形成するので、塗布前には床の正しい洗浄が必要になります。汚れた床に塗布すると汚れを塗膜の下に閉じ込めたり、ワックスの密着不良の原因になります。



樹脂ワックスの塗布準備－1

樹脂ワックスを塗布する前に準備行います。

○主となる資機材

樹脂ワックス

ワックス塗布
モップ

ワックスタンク
小分け容器

○その他資機材

安全表示板

送風機

タオル（雑巾）

◆準備のポイント

- 樹脂ワックスや資機材は塗布面積に合わせて準備します。
- 樹脂ワックスは通常のモップで100㎡/L、フラットタイプで70㎡/Lが標準使用量です。

樹脂ワックスの塗布準備－2

・まめ知識－樹脂ワックスの種類

樹脂ワックスには一般的にハードタイプ、ソフトタイプの樹脂があります。ハードタイプは耐久性が高く、光沢は少なめで、ソフトタイプは耐久性は劣り、光沢は高めです。現在は高濃度タイプや高密度架橋により耐久性も高く、光沢も高い製品が開発されています。また、バフイングにより光沢の復元が高いタイプもあります。

・まめ知識－モップの種類

TRモップ
フラットタイプ



TRタンク
ワックスタンク



ワンタッチタイプ



T字モップ



スプリング
モップ

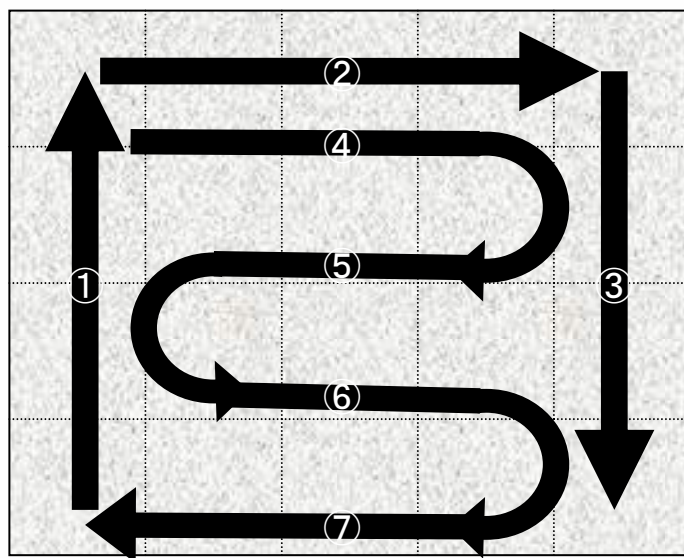


プレスモップ



樹脂ワックスの塗布(フラットタイプ)

- ①ワックスを必要量準備しワックスタンクやバケツに小出しします。
- ②きれいなモップを準備します。
- ③ワックスタンクにモップを浸し、ワックスタンクでモップを絞ります。
- ④ワックスを端からコの字型に塗布し、真ん中を部分を塗布します。



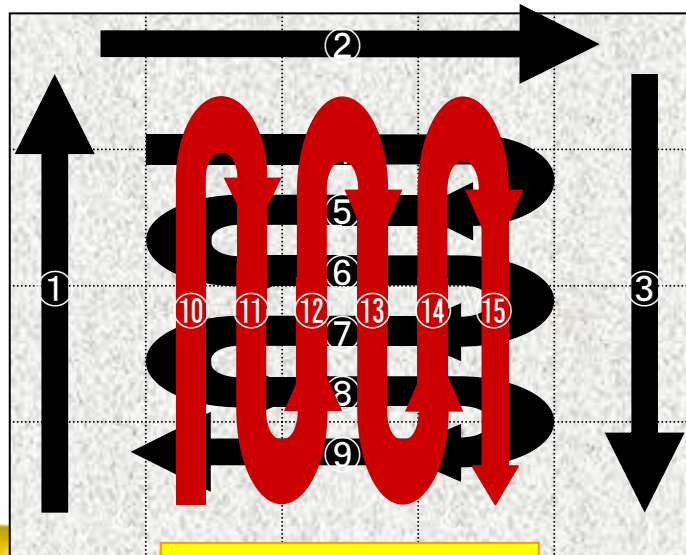
標準作業順序

◆塗布のポイント

- ワックスは薄く均一に塗布します。
- スミから1~2cmあける感覚で塗布します。
- ワックスは垂れない程度によく絞ります。
- 一回目のワックス塗布は、出来るだけ薄く均一に塗布します。
- 仕上の塗布は丁寧に塗布し、塗り残しをなくします。
- 幅木や備品にワックスが付かないように注意します。
- ワックスを床にこぼして塗布する場合は、①②③は出来るだけ壁際から離し、④~⑦の段階で壁際まで塗布します。モップが絞れていないので、スミにワックスが溜まりやすくなります。

樹脂ワックスの塗布(通常タイプ)

- ①ワックスを必要量準備しリンガーバケツやバケツに小出しします。
- ②きれいなモップを準備します。
- ③リンガーバケツにモップを浸し、モップリンガーでモップを絞ります。
- ④モップの糸を手で握り、幅木や壁際にワックスが付かないように這う様にコの字型に塗布します。
- ⑤中央を左右に塗布し、その後上下に塗布し格子状に塗布していきます。



標準作業順序

◆塗布のポイント

- ワックスは薄く均一に塗布します。
- スミから1~2cmあける感覚で塗布します。
- ワックスは垂れない程度によく絞ります。
- 一回目のワックス塗布は、出来るだけ薄く均一に塗布します。
- 仕上の塗布は丁寧に塗布し、塗り残しをなくします。
- 幅木や備品にワックスが付かないように注意します。
- モップリンガーを使用しない場合はモップを半絞りの感覚で絞り塗布します。ポタポタと垂れないように注意します。ワックスを直接塗布する場合は一箇所にワックスが溜まらない様に注意して下さい。



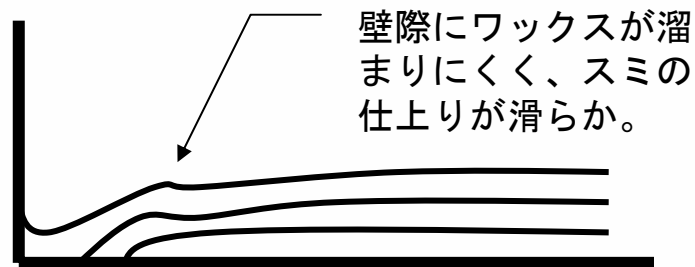
樹脂ワックス塗布時の注意点

- ワックス塗布時は通行に注意します。（転倒事故、仕上不良の原因）
- 新築の床材ほど丁寧に洗浄します。（密着不良の原因）
- 塗布時は必ずきれいな状態の床で塗布します。（黒ズミの原因）
- 汚れた水拭きモップで水拭きしない。（黒ズミの原因）
- 洗剤分、水分は完全に取り除きます。（密着不良、光沢不良の原因）
- 塗布後直ぐに送風機を塗布面に当てない。（造膜不良の原因）
- 冬場乾燥時に冷たい外気を当てない。（造膜不良、塗膜白化の原因）
- 床面5℃以下の時は塗布しない。（造膜不良、乾燥不足の原因）
- 一度使用したワックスを元の缶に戻さない。（腐敗の原因）
- 使用したワックスモップは必ず洗う。（腐敗の原因）

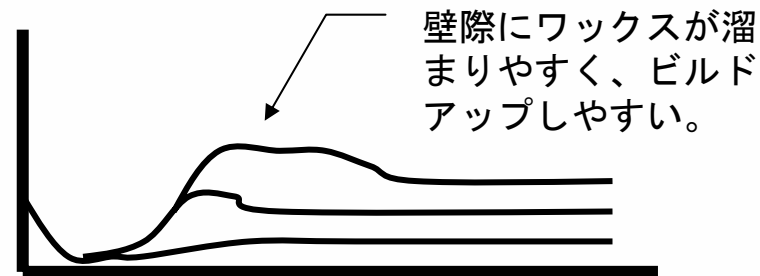
樹脂ワックス塗布時のポイントー1

壁際の塗布ポイント

◆樹脂ワックスを何層か塗布する時は1層目は壁から遠く塗布し、2層目、3層目と順番に壁際近くと塗布していきます。逆の場合より滑らかな仕上がりと同時にスミのビルドアップも予防しやすくなります。



・内から壁際に塗布した場合



・壁際から内に塗布した場合

樹脂ワックス塗布時のポイントー2

通行の激しい場所の塗布ポイント

※建物の性格上、完全に長時間通行を遮断できない通路等では、できるだけ薄く塗布し送風します。本来樹脂ワックスは塗布直後に送風すると、塗膜が波打ったり、可塑剤が飛び出し弱い皮膜構造で光沢も出ない状況を作り出しますが、建物オーナーサイドに了解の上、安全を確保の上対処する塗布ポイントになります。



乾燥も早く、塗膜が波打ち難いので、光沢は少ないがムラになりにくい。

・薄く塗布した場合



乾燥も悪く、塗膜が波打ちムラになる。

・厚く塗布した場合



樹脂ワックス塗布時のポイントー3

冬の寒く雨降り時の塗布ポイント

■樹脂ワックスは水溶性のため水分が乾燥し皮膜（フィルム）を形成します。そのため、雨降りなど湿度の高い日や温度が低く乾燥の悪い日にワックスの乾燥が遅くなるのです。特に水溶性のため水が凍るようにワックスも凍ります。だから、5℃以下のときはフィルムを形成できなくなります。しかし、清掃はこのような時も作業を実施しなければならない時もあります。このような時は、できるだけワックスを薄く塗布し、2層目は塗布しない様にします。薄く塗布すると乾燥も早く連続したフィルムが出来る確立が高くなります。しかし、2層目を塗布すると1層目が完全に乾燥した状態ではないのでパウダリングによりなりやすくなります。もちろん急激に温度が低下すれば1層でもパウダリングなど密着不良になりますが、リスクは2層塗布した場合より低くなります。

■このような状態の時は、出来るだけワックス塗布は避けるようにします。



樹脂ワックス塗布のまとめ

■樹脂ワックスの塗布はきれいに、問題なく塗布できれば手順に囚われることはないのですが、作業効率やトラブルへの対応を考えた時、基本に忠実に樹脂ワックスの特性を捉えることが大変重要です。